



褐色少年らんちき漫画

# シムレ・マシレ

**R-18**  
ADULT  
ONLY  
18歳未満の  
購入、閲覧禁止

\*本作品は成人向け作品です。  
18歳未満の方の閲覧、購入を禁止しています。  
この作品はフィクションです。  
実在する人物、団体とは一切関係はございません。



この度は「ミダレテ・マミレテ」をお買い上げいただき、  
ありがとうございました。  
少しでも楽しんでいただけたら幸いです。

2021/02/25 ストレンジャー

HP <http://syota.buzama.com/>  
MAIL [undergroundou@gmail.com](mailto:undergroundou@gmail.com)  
pixivID undergroundou  
Twitter under\_groundou

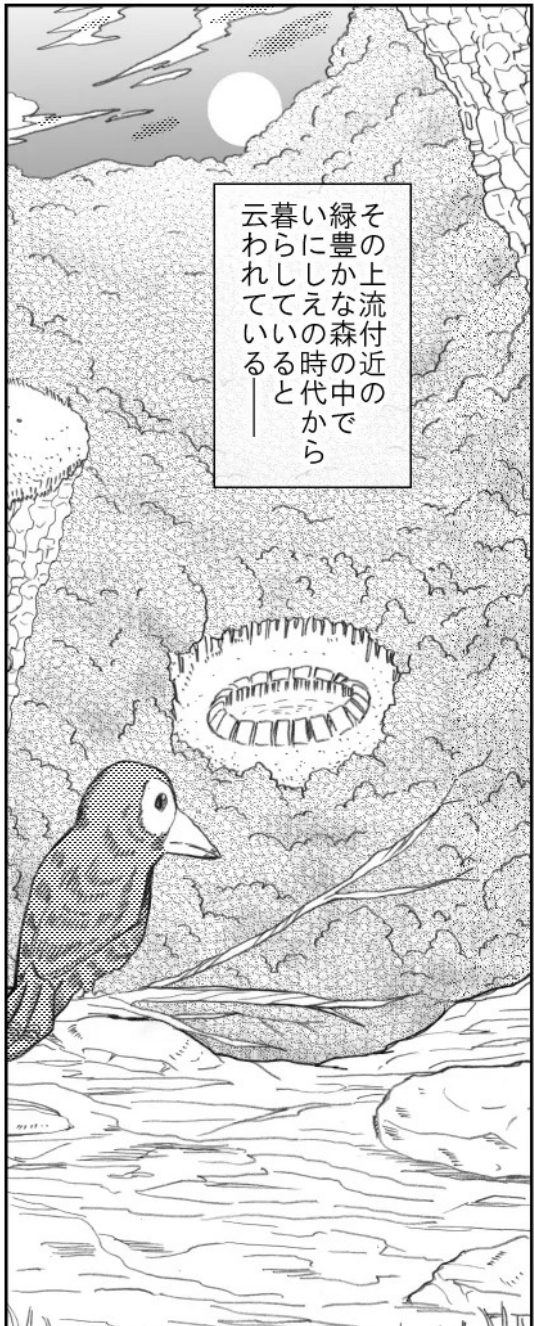


広大な熱帯雨林に  
流れる  
世界三大河川の一つ  
「デエー川」

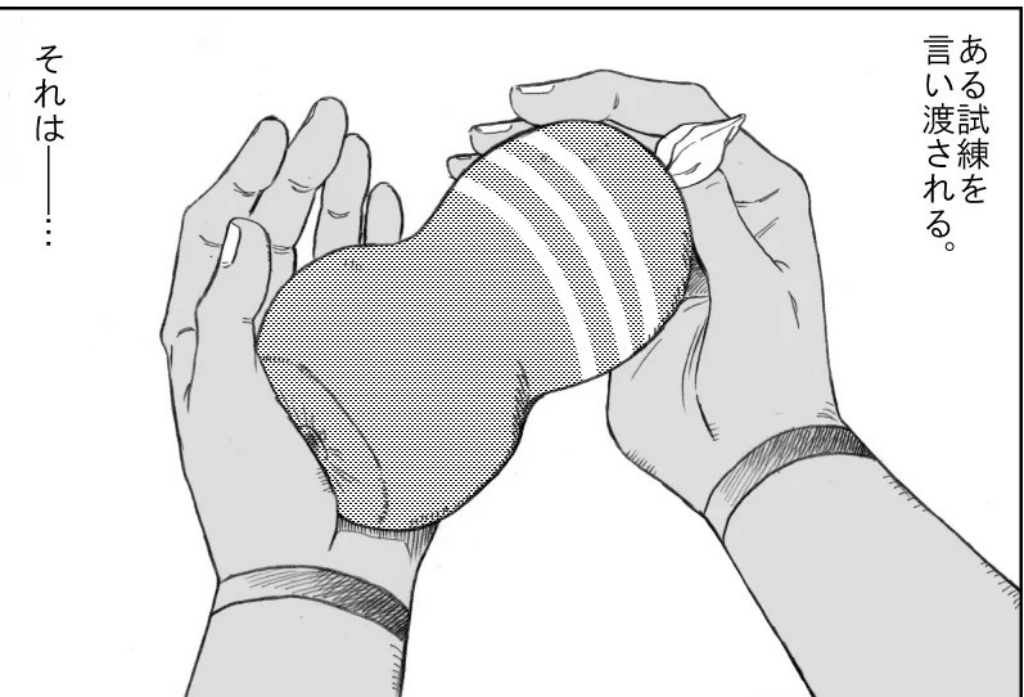


先住民族集団  
「ジッカノリヤ族」

そこで生まれた  
男子たちは  
元服の年齢になると



その上流付近の  
緑豊かな森の中で  
いにしえの時代から  
暮らしていると  
云われている――



ある試練を  
言い渡される。

それは――



実の内部で  
精通せよ……と  
いうものだった。

ミヤレ・マミレ



部族が住む  
地域でしか  
採れない  
希少な果実  
「ミヤレの実」



その完熟した実に  
己のペニスを  
突っ込み



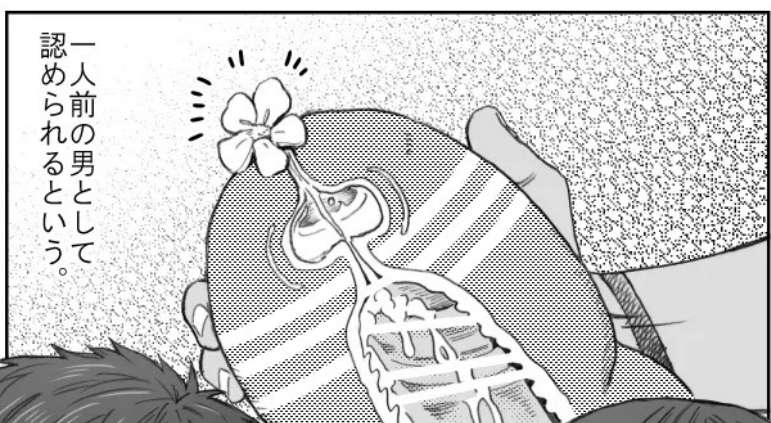


その通過儀礼のような  
試験に毎年  
易々と合格する者も  
いれば――



射精に成功すると  
有機物に反応した  
テンギヤの実に  
花が咲き――

ゴウゴウ……  
ゴウゴウ……



一人前の男として  
認められるという。



当然ながら  
花を咲かせられず  
不合格になる  
者たちもいた。

ホリ  
ホリ……

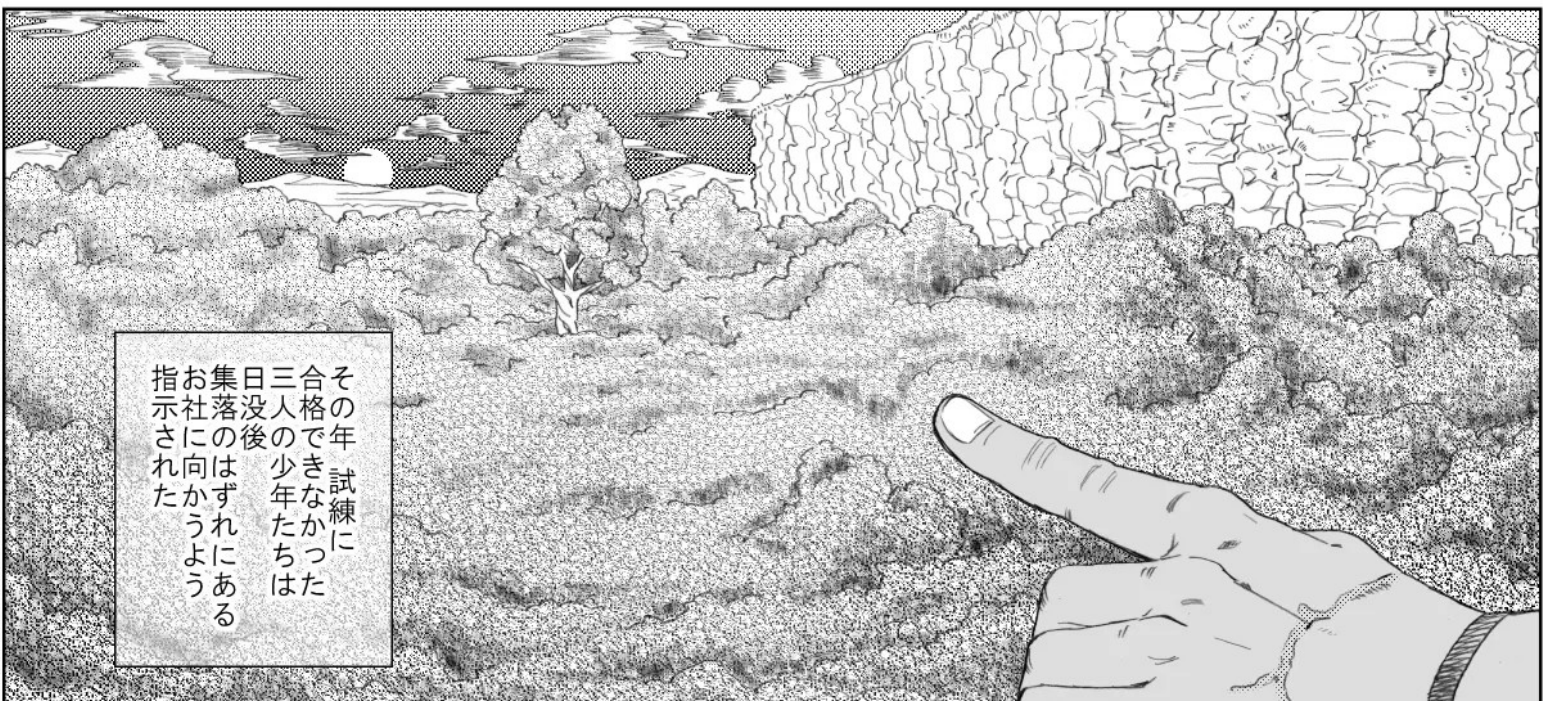
そんな  
落ちこぼれの  
一族の長は  
救済措置として



ある秘策を  
用意していた



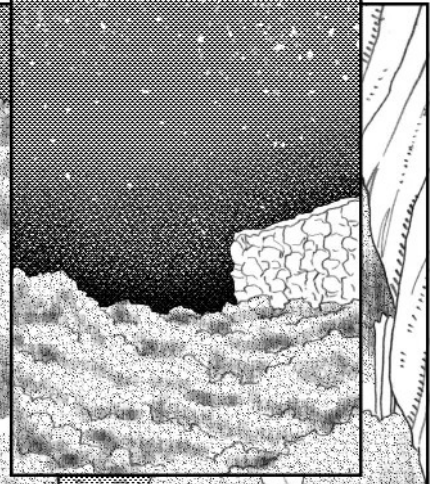
その年 試練に  
合格できなかった  
三人の少年たちは  
日没後 集落の  
お社に向かうよう  
指示された





は...!!  
何でもまた  
こんな夜中に  
行かないや  
なんねえの??

明日で  
よくねえ?  
腹減った!



それがよお...  
朝飯前だ  
思ってたん  
だけだよ  
村のみんなに  
見られてると思うと  
アガっちゃまって  
チンコロ硬く  
なんなかつたんだよ



リユーお前は  
何で落ちたんだ?  
ガタイもいいし  
チン棒の毛だつて  
オレらの年代じゃ  
誰よりも  
早く生えて  
きてたろ??

フイーゴが  
合格できないのは  
何となく  
わかるけどよお...



しょうがないよ。  
ボクたち試験に  
落っこちちゃったん  
だから...



所詮お前は  
まだケツの青い  
ガキなんだよ!  
いや...  
いつも悪さして  
尻叩かれて  
ケツまっ赤に  
サレガキだな!!

お前は  
インシシだな  
食うことしか  
能がねえ  
もんなんだ!!

おいっ!!



ロロロロ  
気のち  
ちつちエ  
ヤツ...  
お前も  
チンコロも  
かっつけたっけ?  
んだとお!!  
そーゆー  
どーなんだよ  
シモン!!



ヨユーで  
息まいてた  
クセに  
お前だつて  
落っこち  
てんじや  
ねエーか!!  
オ:オレは  
実が腐つたんだ  
運が悪かつた  
だけだ!  
すいわけ  
すんなよ!



ケンカはに  
しとけん  
シモン

……ちえ

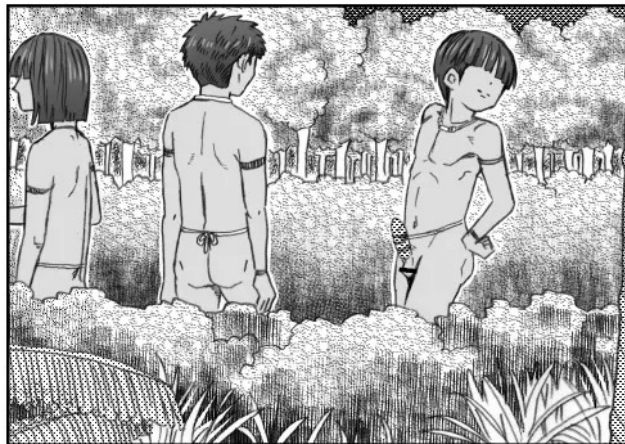


お前ら  
しい加減に  
しろよ!

……もうすぐ  
長老さまの待つ  
お社に着く



まあもつとも  
そうやって  
無邪気に  
いられるのも  
今のうちだけ  
……



あつたり  
フイーゴ

長老が  
オレたちのこと  
見捨てるワケ  
ねエじゃん

救済措置が  
だから  
何も心配  
いらねえって!

あ……あの  
長老さまは  
本当に  
ボクたちのこと  
救って  
くださるん  
でしょうか?



?

……



オレにとつて  
それは……  
呪いのような  
ものだったよ



う……ん  
そだね

……救済措置か



長老さま  
今年の儀式に  
合格できなかつた  
三人を  
連れてきました



茂みの中で  
誰にも見られなきゃ  
今度は上手くいくぜ

オレも  
もう一回  
やらせて!

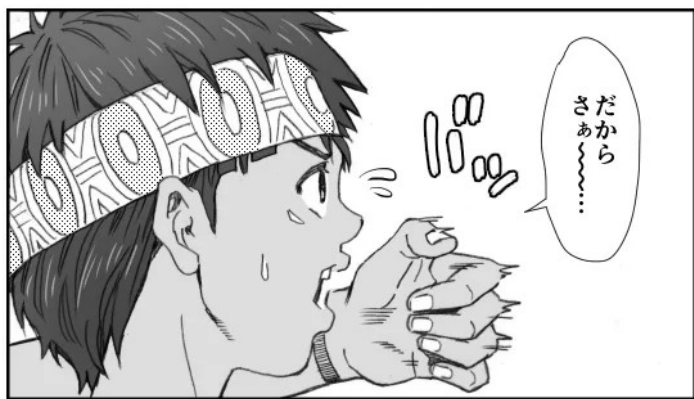
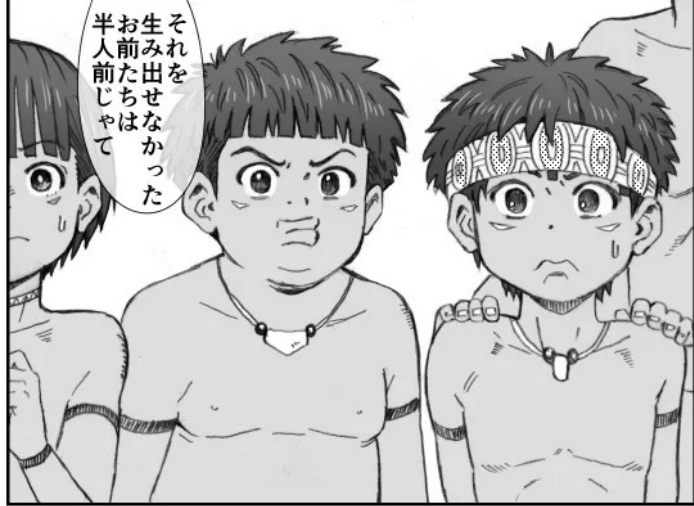
長老お:  
昼間のアレ  
やらせてよ

オイラが  
使った実  
腐ってたんだ

うむ...  
ご苦労だった



ジツカノリヤ族に  
とって—







もつと  
足広げろ!  
おめエは!!

うう...  
スツゲー  
屈辱感...

アル兄い  
ごめん...  
オレさっき  
ウンコしたから  
ちよつと  
ついでるかも

リライさん  
こんなコト  
させて  
スイマセン...

おい...

構わん。



ズツ



ぐ...  
けつこお  
奥まで  
...  
つ!!



グッ

あ...  
っ



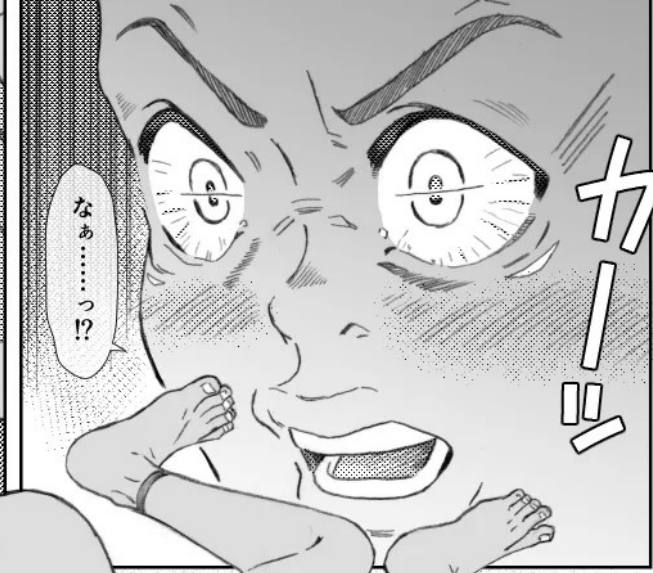
オレも  
クツも  
漏れそお...





ズドミ

かは…っ



なあ……っ!?

カーッ



な…何だコレ  
体が急に…

…抜けてく  
…!?

立…た…  
…っ…  
…た…  
…た…



ガッチくん  
オイラたちの体!  
どーなってるの!?

効果が出て  
きたようだな

頭が  
クラクラして  
体が火照って  
きたらう?



ぬっ

あ…っ!?!



だがなあ…  
それだけじゃ  
ねえ…

え…っ?!



特にケツの穴は  
熱が出るほど  
はやく疼いてる  
はずだぜ…

う…っ  
はあ



ここの張りが  
張り裂け  
そうなるほど  
硬くなって  
苦しいだろ？

キワツ

.....  
70  
70  
70



痛ってエくらいに  
硬くなり  
やがった...!!

ドカン ドカン



痛つてもねエのに  
触つてエ...!!

ビキッ

70 70 70  
ビキッ



ウ...ウソだろお...  
昼間あんなだけ  
イジつても  
硬くなんなかった  
手ツ棒が...

70 70 70



案ずるな……死ぬわけではない。



新芽の世話は  
リアルアルガッチ  
お前たちに任せろ

長老さま……  
ボクたち  
どうなるん  
ですか？



どうやら三人とも  
うまく先祖返り  
できたようだな



命が続き限り  
無尽蔵に作り上げる  
素晴らしい効能を  
持っているのだ

はあ

はあ

はあ

ジツカノリヤ族にとって  
精液は宝石だと  
言っただけ……  
お前たちが摂取した  
あの種はその精液を急速に

だがその代わりに  
種を体内に  
取り込んだ者は  
男の肉体にしか  
欲情できなくなると  
云われている



……その証拠に

オラッ



ブリンッ



ウッ……  
ウッ……  
ウッ……

本当だよ。

ぬっ

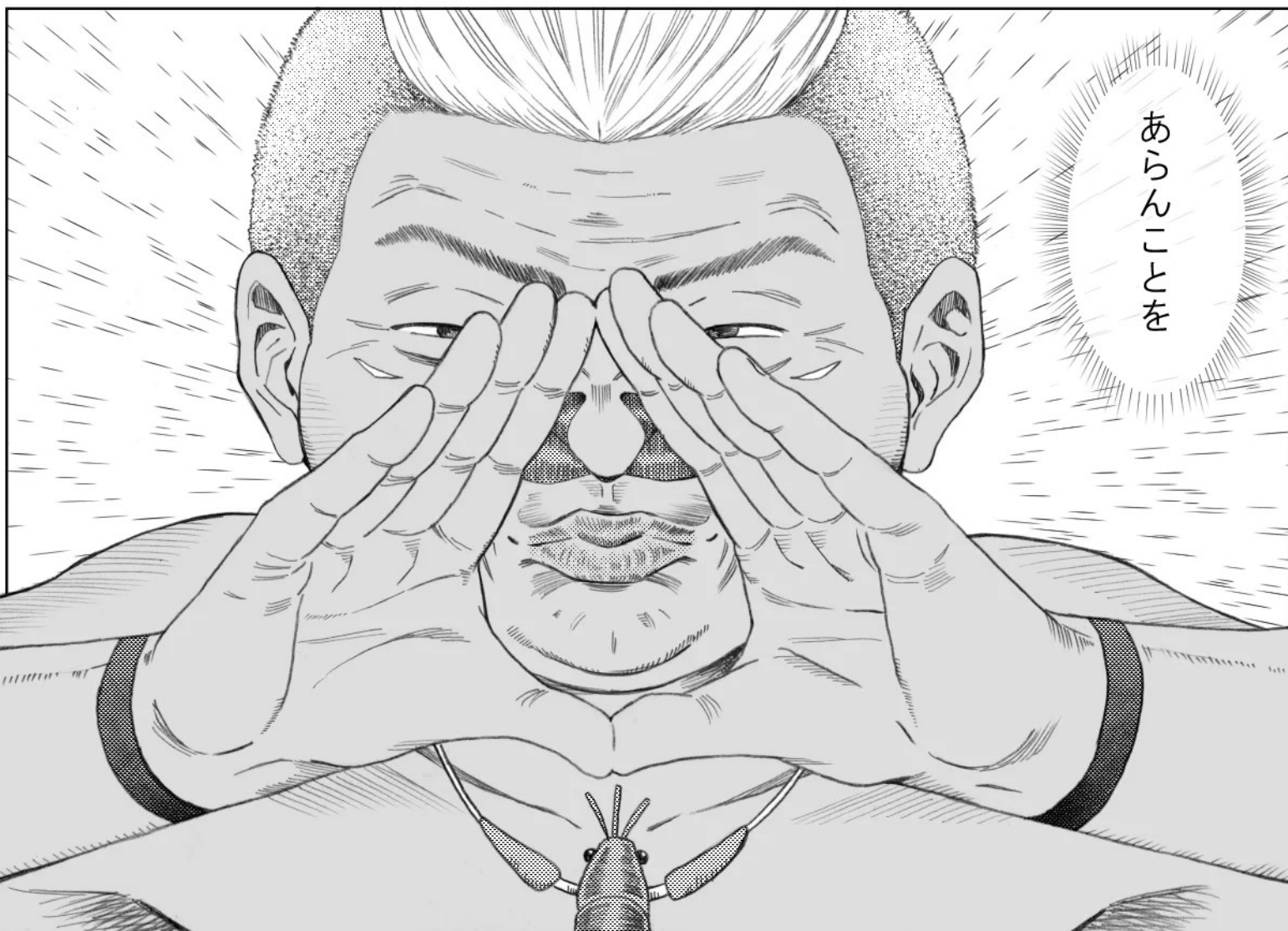




そなたらに—



精霊の  
ご加護が—



あらんことを



ああそうだ。俺たちも一年前にあの種を植えつけた

あの日以来俺たちはなあと今日という日を待ちわびてたんだぜ

はあ はあ



はあ はあ



俺にとってそれは呪いみたいなものだつたよ

もしかしてアル兄ちゃんたちも... はあ

ねえ...



なんせこの一年ずっと掘られ役ばっかからな...

リユー何だよその物欲しそうな目は...?

ニオイだけじゃ物足りなく なっちまったのか?



くらあ...

!?

すーっ

はーっ

すーっ



いいぜ... 今から味合わせたりするよ



このニオイ……  
頭がクラクラして  
おかしく  
なりそうだ

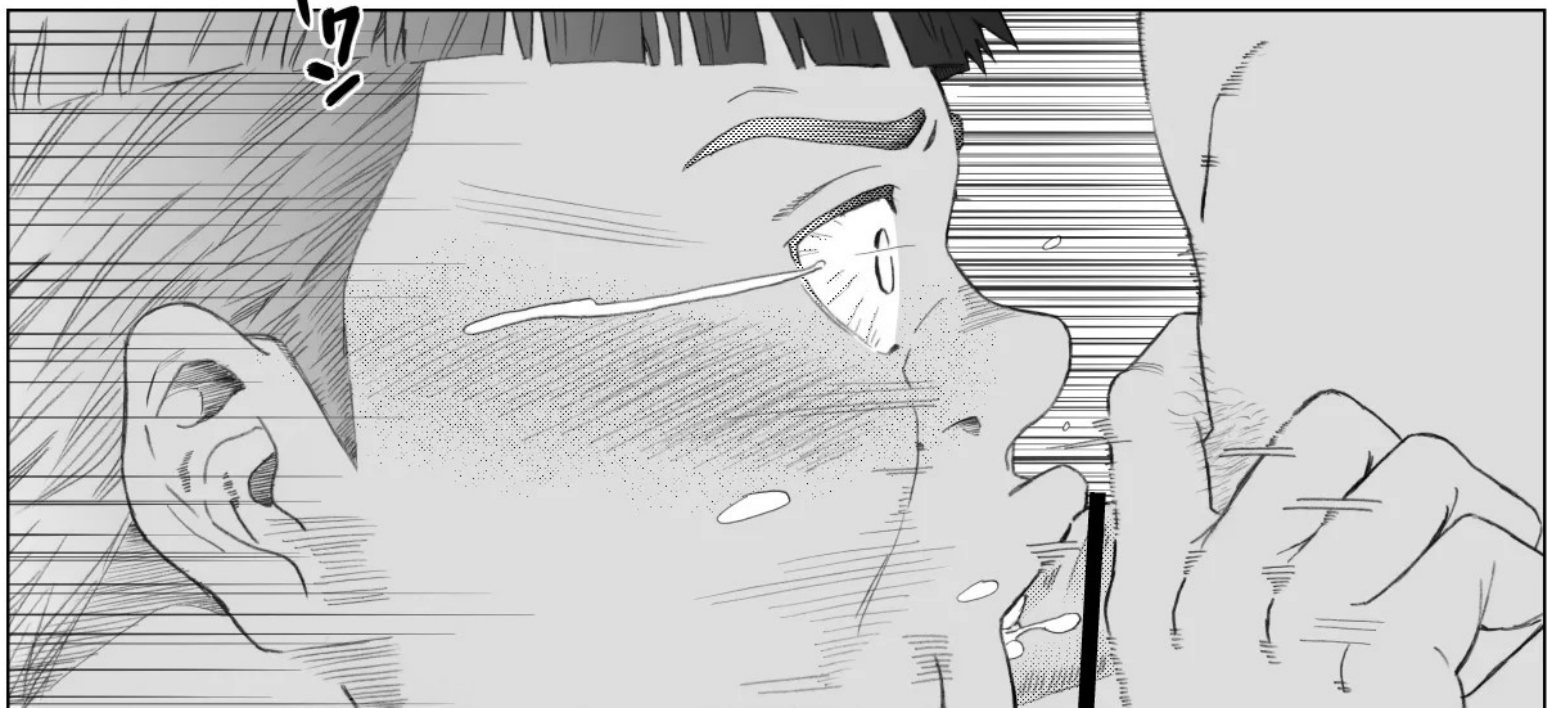
遠慮は  
いらねえぜ……  
根元まで  
ズツボリ啜え込んで  
口いっぱい  
頬張れよ

この日のために  
水浴びもせずに  
臭いもチンカスも  
たんまり溜め込んだ

濃厚な味  
ごちそうを  
よお!



ダメだ……  
我慢できねえ……っ!!







アル兄いのの…  
言う通りにする

わかったよ…  
わかったよ…  
アル兄いのの…



今の俺は…

なにジロジロ  
見てんだよお…  
オレの  
赤いケツが  
そんなに  
珍しい？



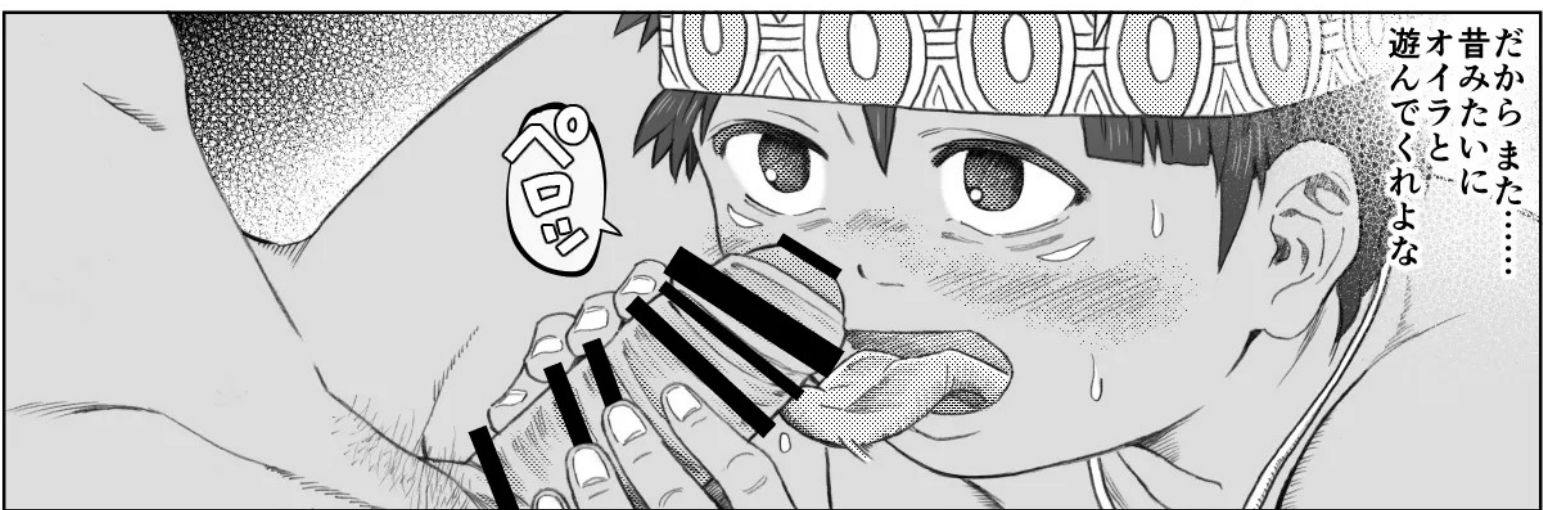
俺は…

アル兄いの？  
飛ばしっこ  
しようよ！



!?

スツ



だからまた…  
昔みたいに  
オイラと  
遊んでくれよな

!?











いいか？  
よく聞け  
リユー。

一滴残らず  
受け取れっ!!

いいぜエ...  
お前に  
やるよ...  
くれてやる。

...おい  
お前ホントに  
初めてか？  
だらだら  
ヨダレ垂らして  
美味そうに  
じゃぶつてくれん  
じゃねエか...

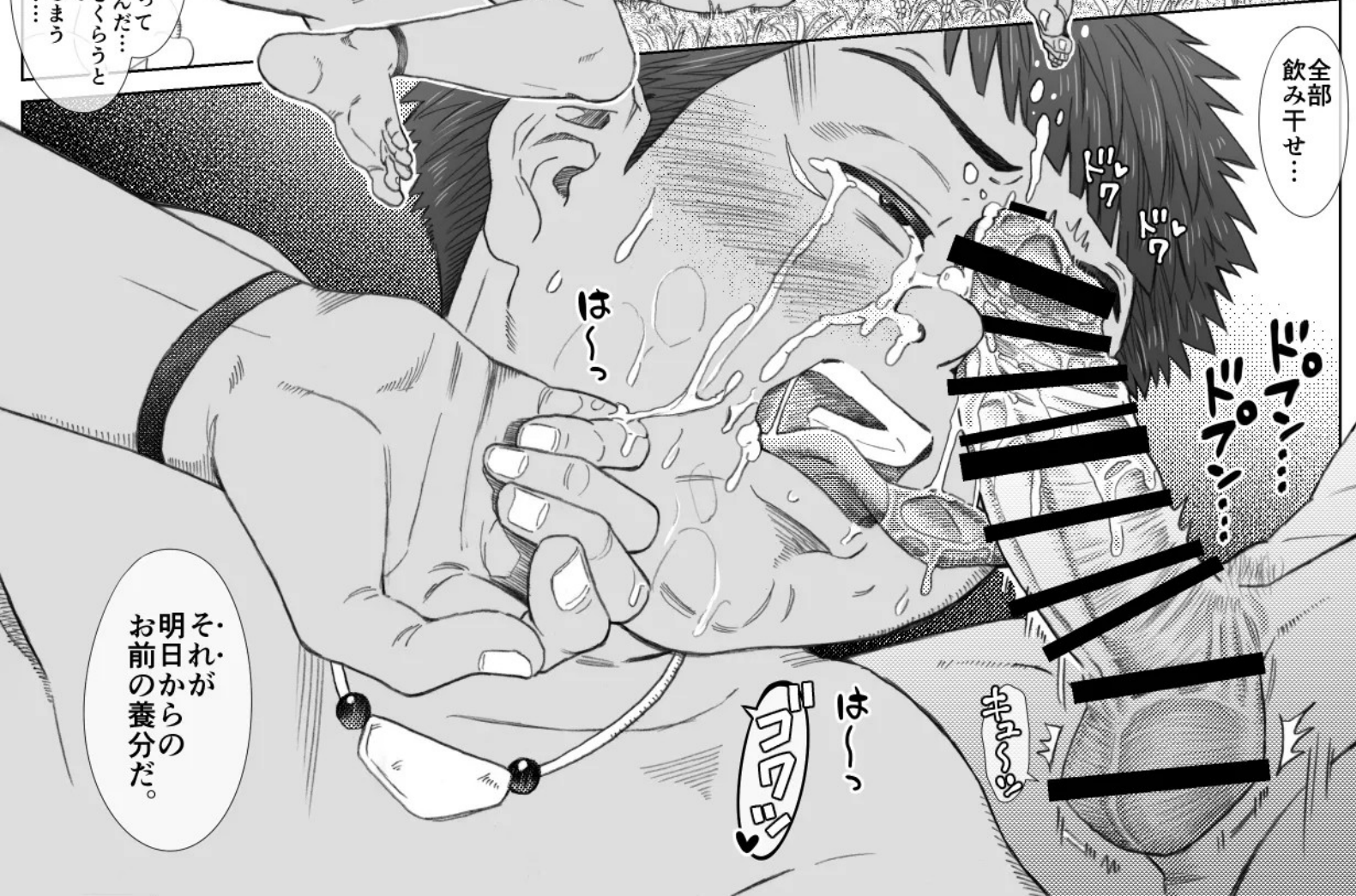


それは俺たちにとって  
一番のごちそうなんだ...  
あの種をくらうと  
味覚まで  
変わっちゃう  
からな...



じゅる

スッスッ



全部  
飲み干せ...

それが  
明日からの  
お前の養分だ。

はっはっ

はっはっ

はっはっ

泣くほど  
美味エってか？

はま

はま

はま

はま

あ……

は……

こっちは  
一足先には  
おわったぜ……

：てか コイツ  
俺のチン棒  
しやぶりながら  
すでに何度か  
射精ちまって  
やがる……

エロイ

エロイ

エロイ

ブルブル

カクカク  
カクカク

こりや  
とんでもねえ  
淫獣になりそう  
だぜ……!!

リリース  
どうだ？

ん……

ろ

ドゥ

ピクピク

カクカク  
カクカク



こちらも  
今終わった

フイゴ  
フイゴ  
フイゴ

カ  
フ

苦しくは  
なかったか？  
フイゴ

いいえ……  
ボク……嬉しいです  
リリースさま……

ん……っ



フイゴ  
フイゴ  
フイゴ



フイゴ  
フイゴ  
フイゴ



アル兄いの  
言う通り  
全部  
飲んだよ





アハハハ

はあ

アハハ

スニッ

スニッ

なあ シモン  
その先っぽまで  
被った包皮を  
剥き下ろして  
カリ首に  
初めて触れたら  
お前はどんな声を  
漏らす……？

はあ

あ、前の  
穴の中  
は、び  
び、突  
たり、  
た、  
つ、め  
な、は  
な、な  
は、な  
ん、か  
浮、表  
る、情  
だ、べ  
を、な  
？



アハハ

アハハ

アハハ

アハハ

アハハ

すべてを……  
俺に晒してみる

この月明かりの  
下でお前の  
すべてを……

シモン……  
俺のシモン



—よお

グイッ

ここまでくれば  
次にどうなるか...

言ってみろよ

この...  
むず痒くて  
堪えない...  
ほ  
オレの  
ケツの中

ガッチ  
くんの...

ほ

バ  
ぢゅ  
ぢゅ  
ぢゅ

ス  
ク  
ス  
ク



もう  
わかって  
るよなあ？



ガッチさんな！

ほ  
ガッチさんの  
チンコロが  
入って...

ほ

白いアレが  
流れたんで...  
ケツの奥まで  
溢れ込んで...

オレを...  
楽にして  
くれるんでしょ？  
ほ

ほ



ちよつと  
ちげエーなあ  
.....

どろっ

ス  
ク

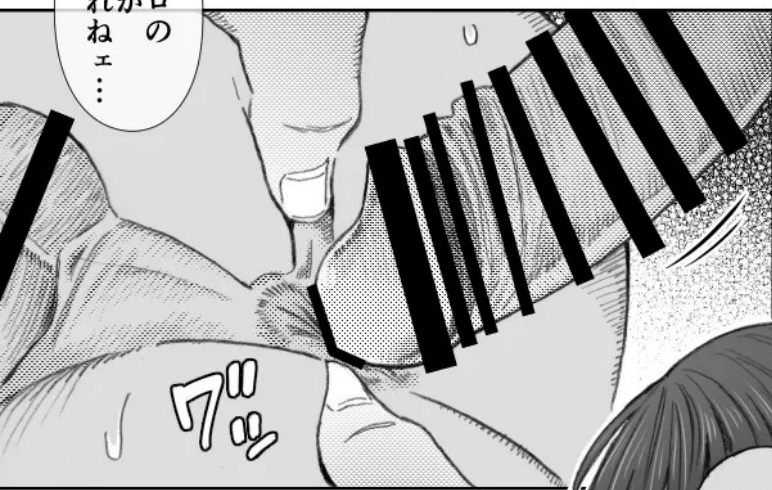


楽になんか  
させねえよ…

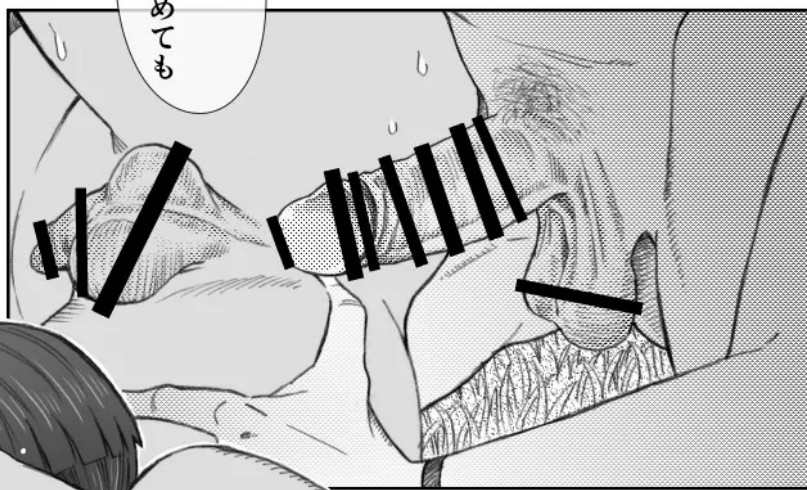
おめえは  
これから  
寝ても覚めても

ぬっ

チンコロの  
ことしか  
考えられねえ…

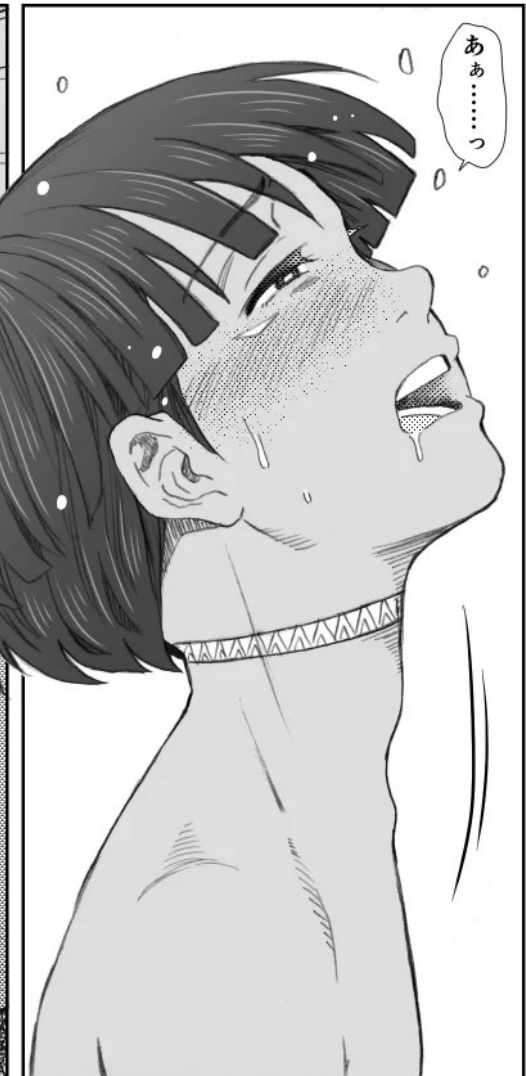
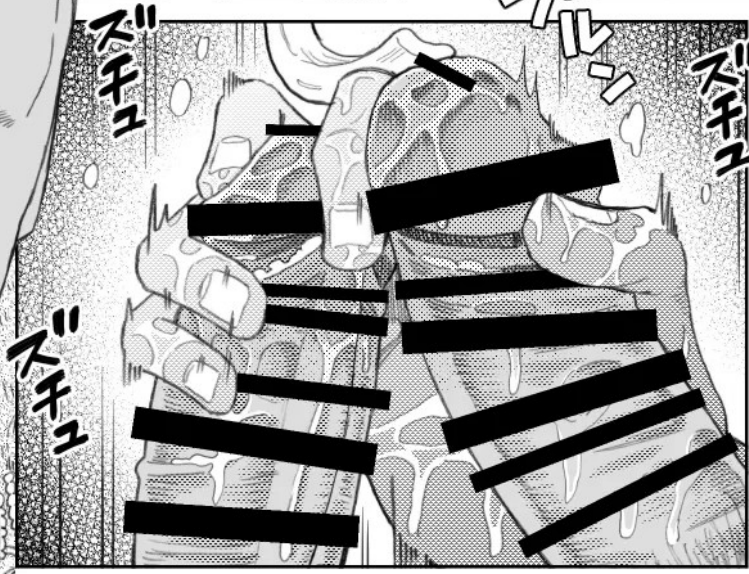
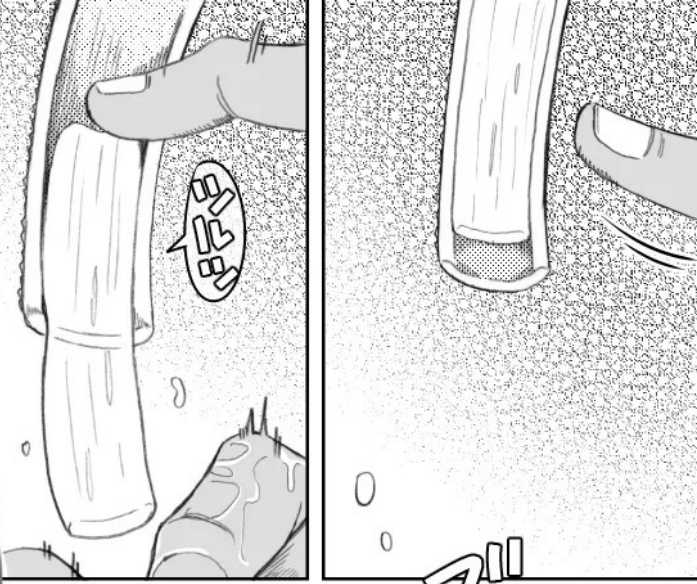


7!!

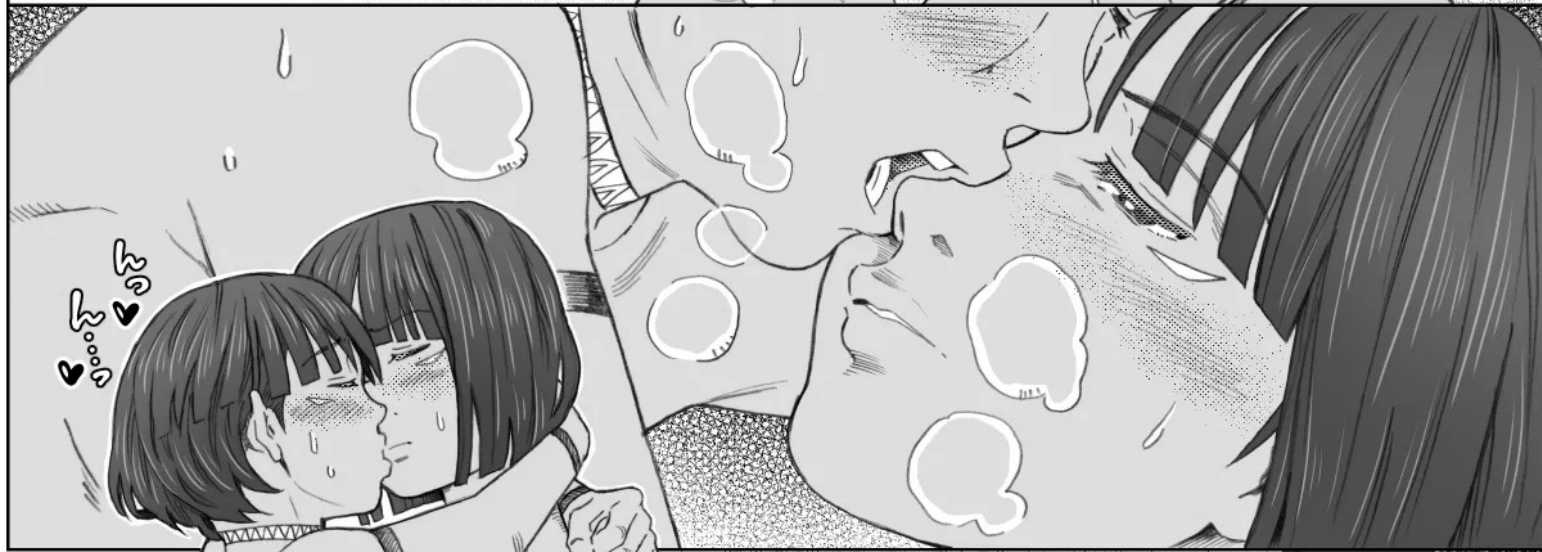


畜生に  
なんだよ!!











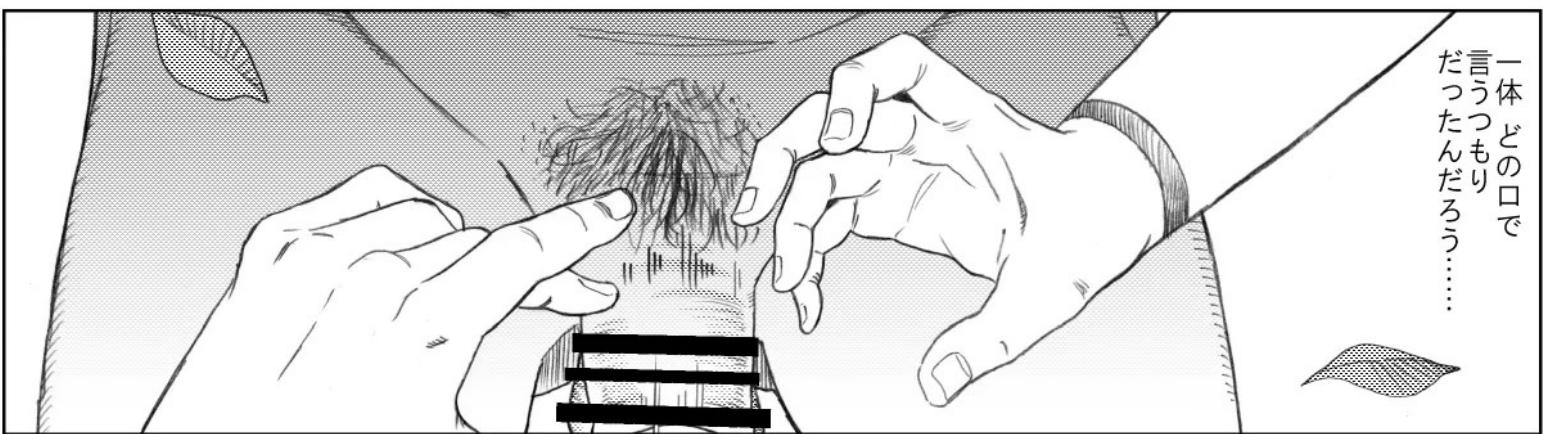








俺がお前を  
守ってやる



一体どの口で  
言っつもり  
だったんだらう……



言い切れなくて  
よかつたんだ



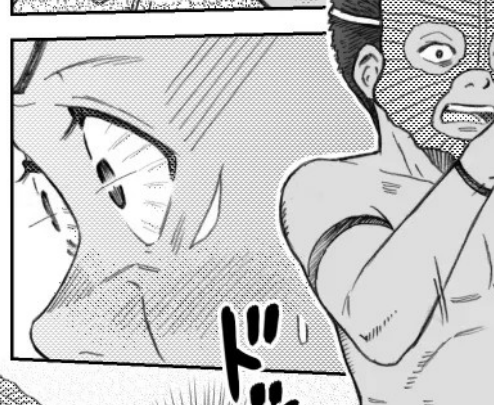
カッ!  
ガッ!



クッ!

どうせ  
この場所から  
逃げる術など  
ないんだから...





なあ：  
シモン——

今の俺には  
守ることも  
償うことも……

できないんだと  
したら……  
お前も——

んあああっ!!

俺と同じ  
地獄に  
堕ちてくれ

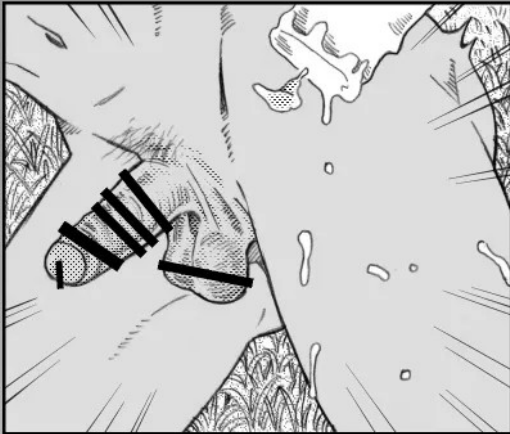
クニッ  
クニッ  
クニッ



そこで一緒に  
蠟のように  
とろけて――



ひとつに  
溶け合おう

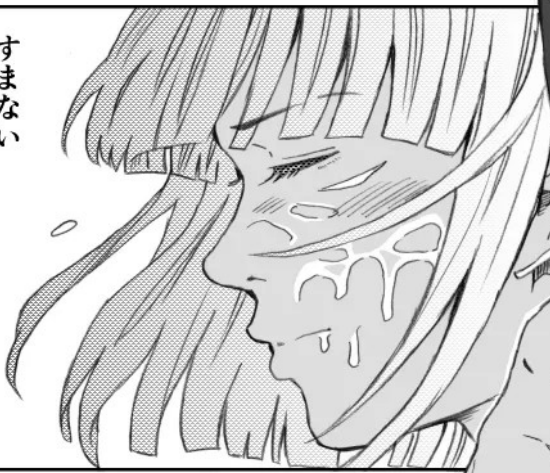


命が燃え尽きる  
その時まで  
一緒に……

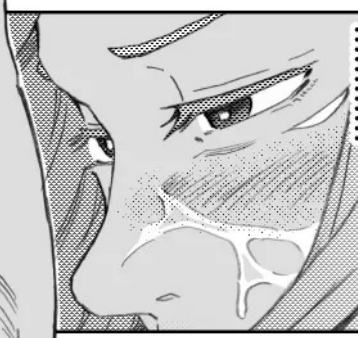




すまない  
フイゴの  
俺はお前の  
涙の止め方  
知らない



今のお前に  
かんな言葉  
かけても  
何の足しにも  
ならないこと  
俺はイヤと  
知っているから



「はいえ  
違うんです  
リライさん…  
ボクは悲しくて  
泣いているんじや  
ないんです…」

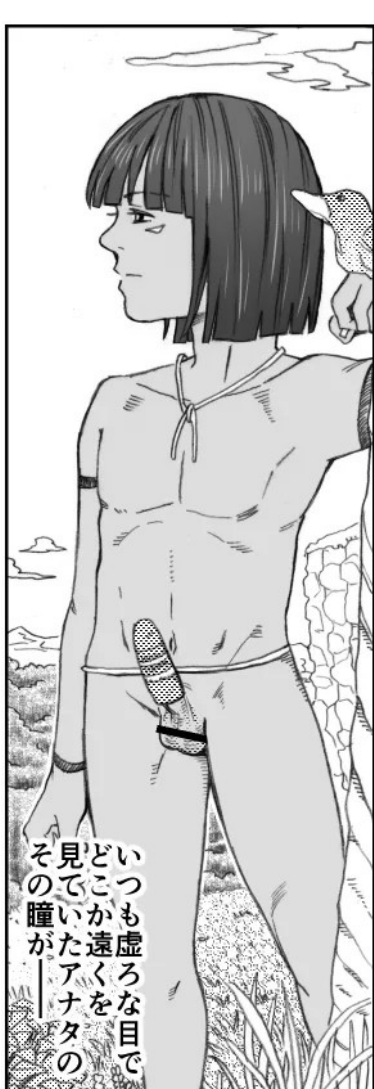
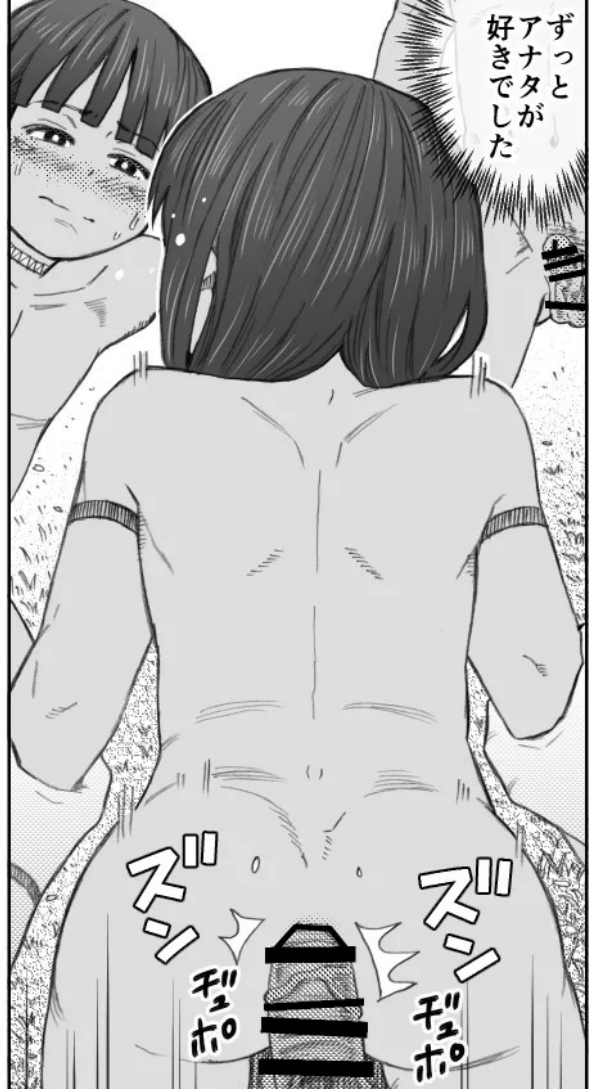


ボクはずっと  
アナタが

今まで誰にも  
言えな  
かったけど…



ずっと  
アナタが  
好きでした



握ってくれた手が  
温かった



優しい言葉を  
かけてくれた

アナタは  
呪いにかかれて  
独りで苦しんで  
いたんですね



震える体を  
抱きしめてくれた





ボクはアナタの指や体に……



何よりアナタの抱えてる孤独に  
触れたい  
寄り添うことが  
できるのが……

心からわかり合えるのが嬉しくて……  
感動してしまっただんです……

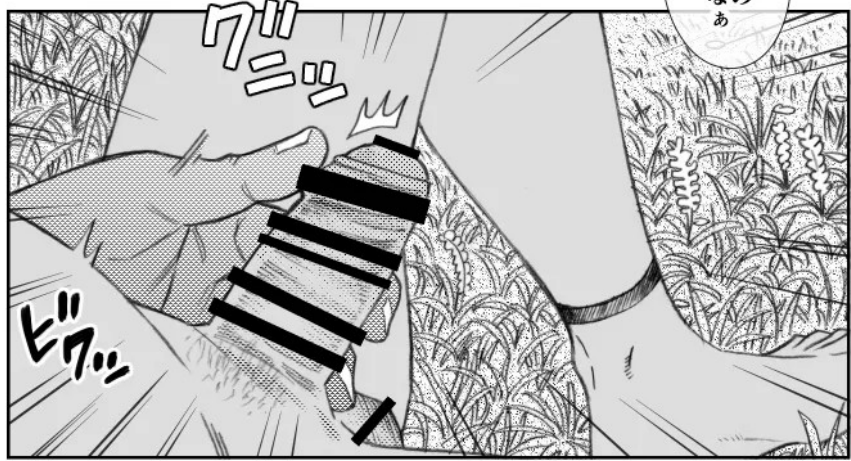


ボクをいつまでも……アナタのおそばに置いてください……  
リリイさま……



カンの鋭いお前なら  
すぐに気づく  
だろうから  
教えといてやるよ...

この村の  
秘密をなあ



シモンのヤローが  
儀式で使った実が  
腐ってたとか  
ア雷はウソじゃねエ

ホントに  
腐ってたよ



儀式に失敗  
するようには  
長老はワザと  
腐った実を  
お前らに渡したんだ

なぜだか  
わかるか?

ズルッ

すんすん

ズルッ

ズルッ

ズルッ

ズルッ

ズルッ

ズルッ

ズルッ

ズルッ

ズルッ

ズルッ

ズルッ

ズルッ

ズルッ

ズルッ

ズルッ

ズルッ

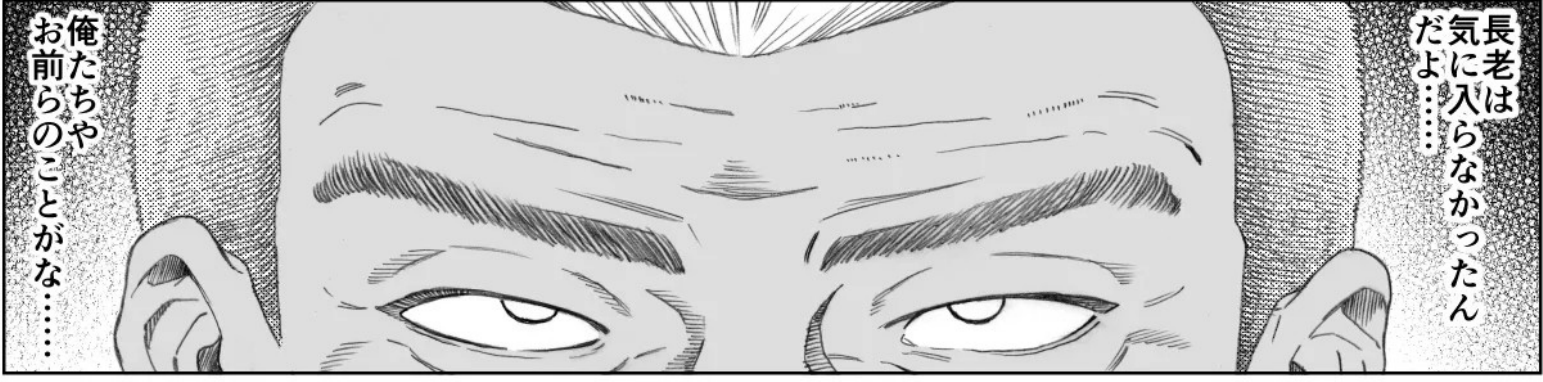
ズルッ

ズルッ

ズルッ

長老は  
気に入らなかつたん  
だよ...

俺たちや  
お前らのことがな...



シモンとリュー  
お前ら二人は  
村の習わしに  
ばかりして



村の大人たちから  
よく思われて  
なかつただろ?  
まあ俺も同じ理由で  
選ばれなかった  
ようだがな



アルには  
みんなを束ねる  
器があつた...  
今じゃ見る影も  
ねエけどよ

ズポッ  
ズポッ  
ズポッ

ズポッ

ズポッ

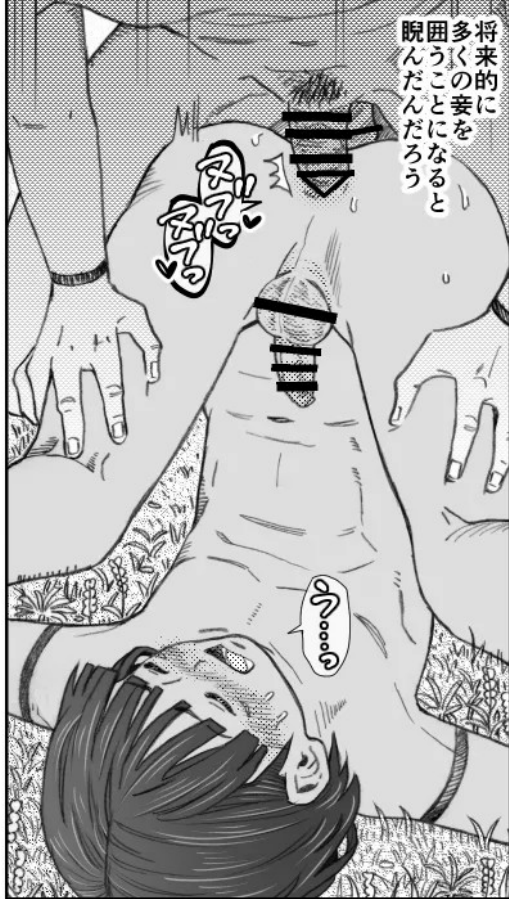
ズポッ

ズン

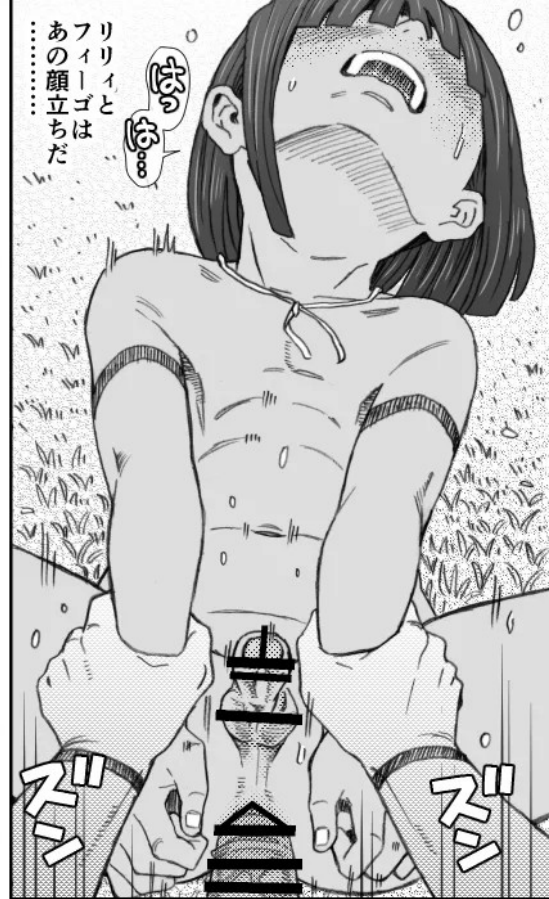


自分に歯向かう者  
自分より  
優れている者を  
若いうちに  
排除しておく  
たかったのさ

長老は  
大人になるための  
儀式だといつつ



将来的に  
多くの妻を  
囲うことになると  
睨んだんだろう

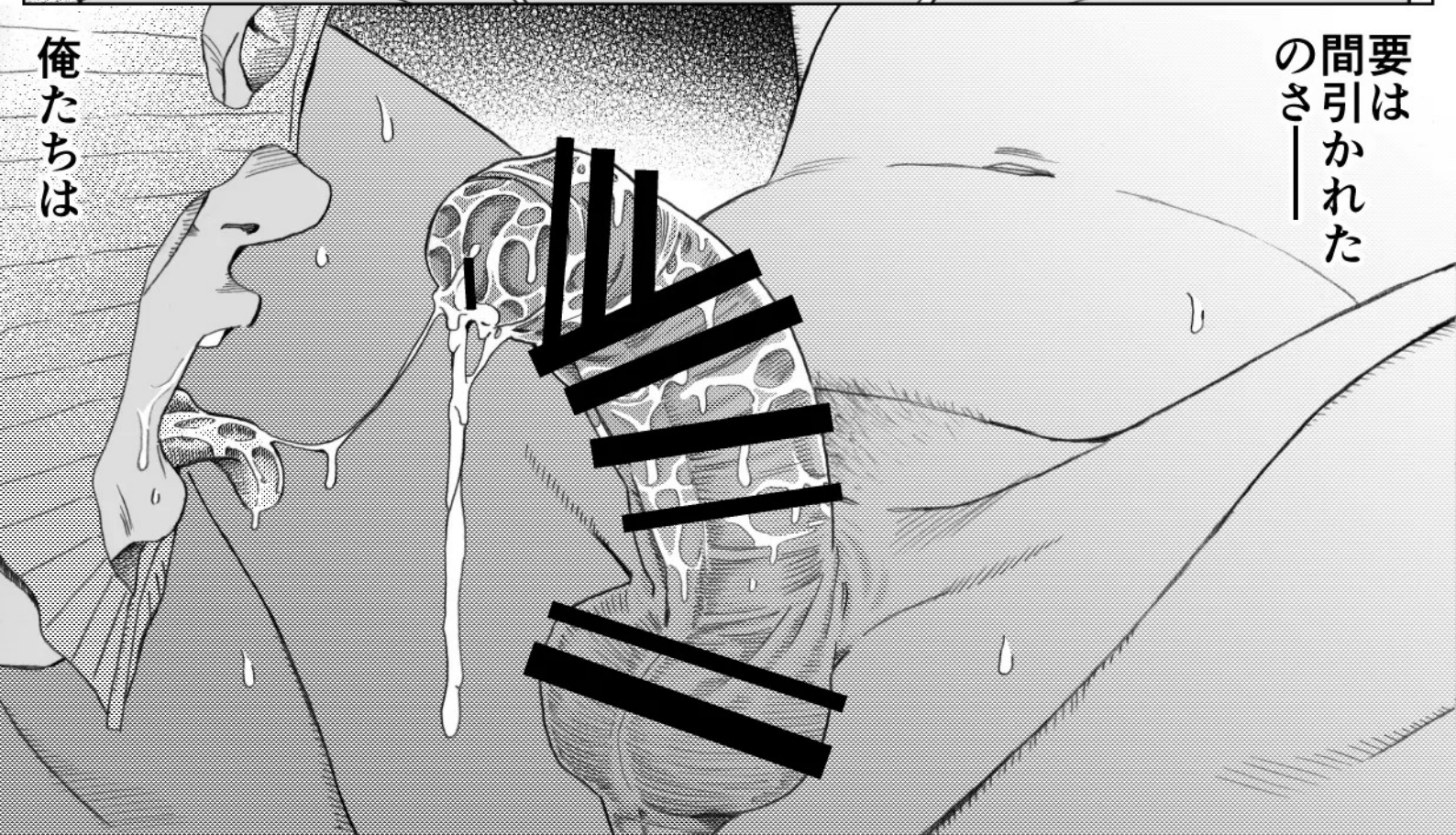


フリーと  
フリーゴは  
あの顔立ちだ  
……



自分だけが  
いつまでも  
甘い汁を  
吸えるように……

いつまでも  
一族の長として  
居座れるように……

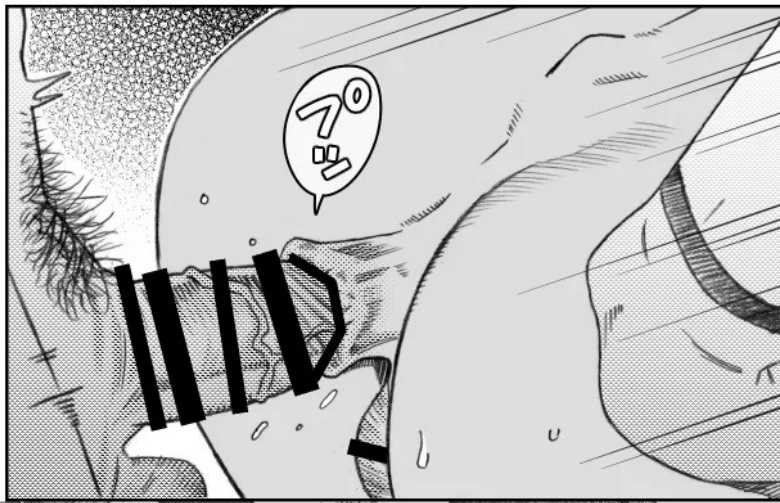
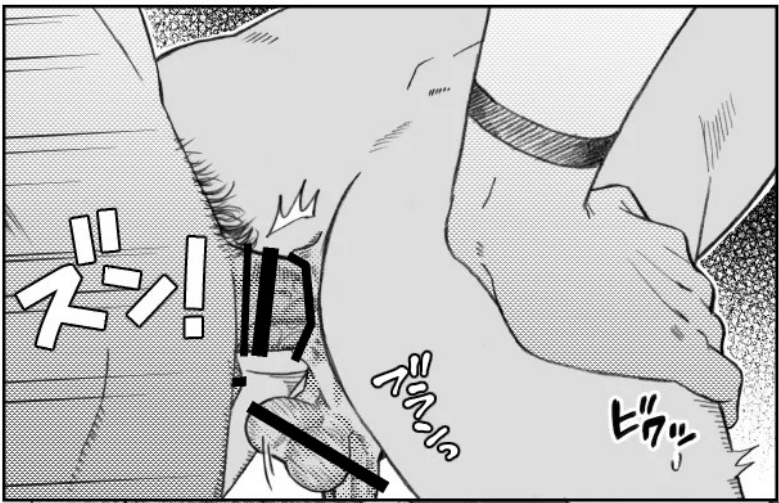


俺たちは

要は  
間引かれた  
のさ——



なあ……  
笑っちゃもうだろ？  
自分勝手な  
たった一人の  
欲のために  
ここに居る  
全員が犠牲に  
なったんだぜ……



ああ……  
可笑しくて  
可笑しくて  
気が狂いそうだぜ



何もかも  
お前から  
奪っていくぜ？



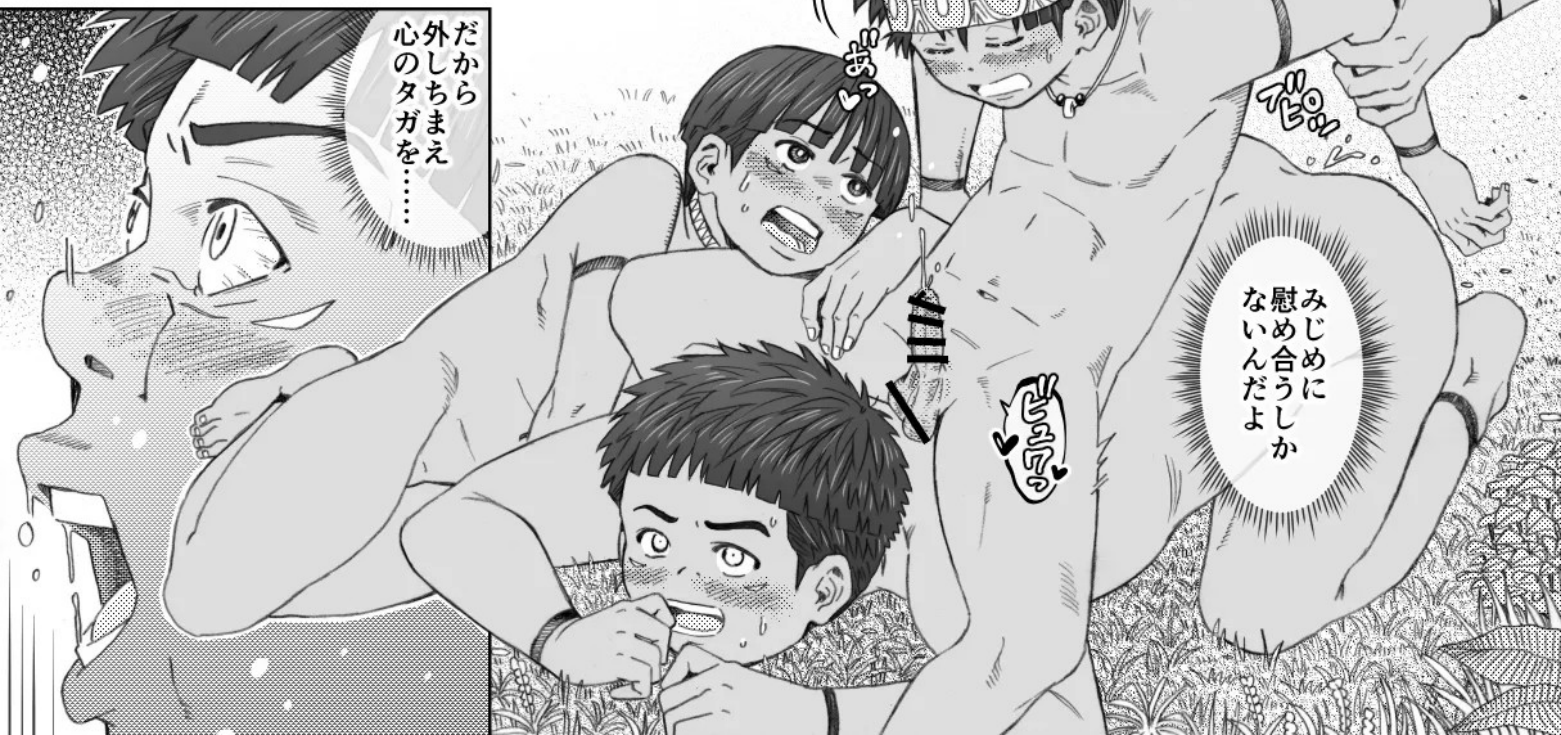
けどなあ……  
コイツらは  
この世に絶望する  
ほどの暇も……



反旗を翻す  
気力も……



俺たちは  
この不毛な  
まぐわいを  
一生続けて



だから  
外しちまえ  
心のタガを……

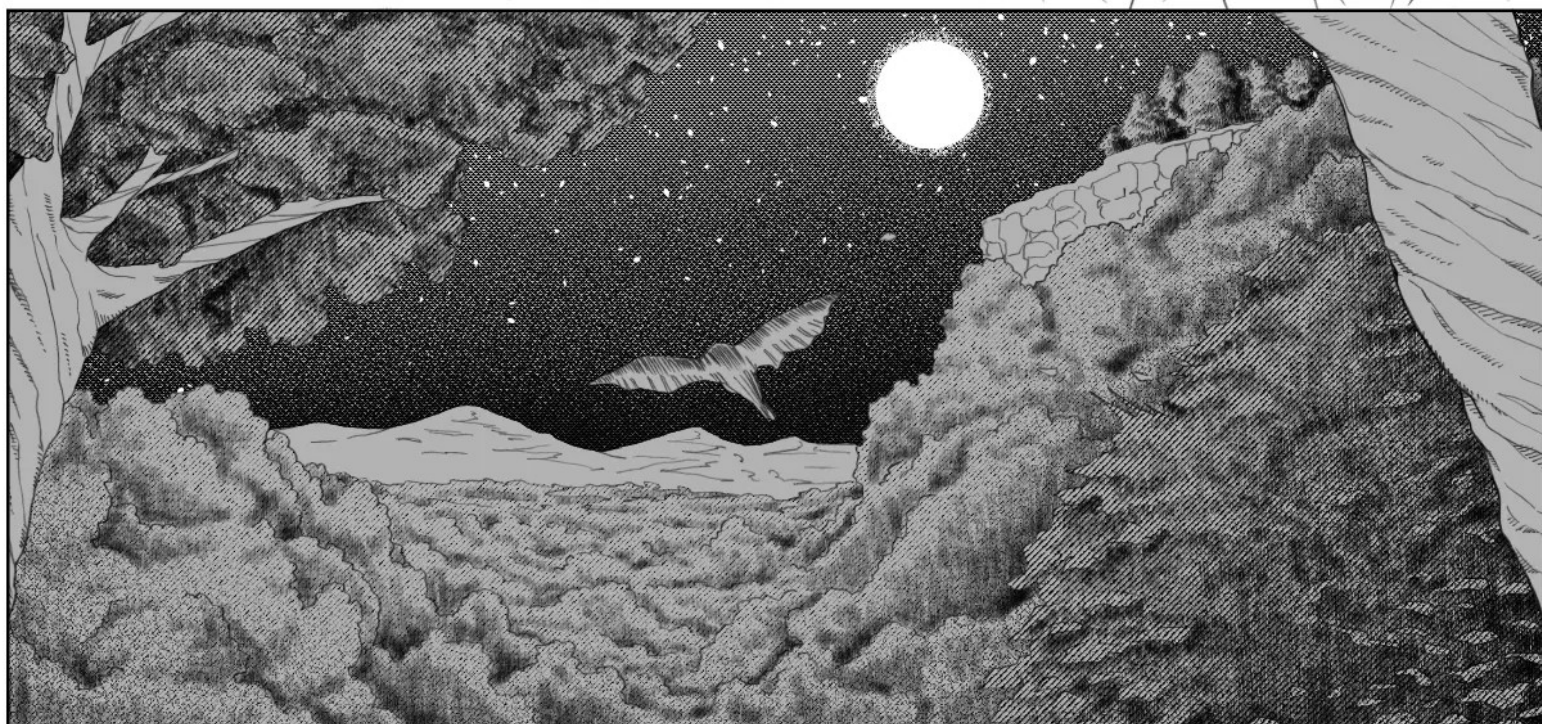
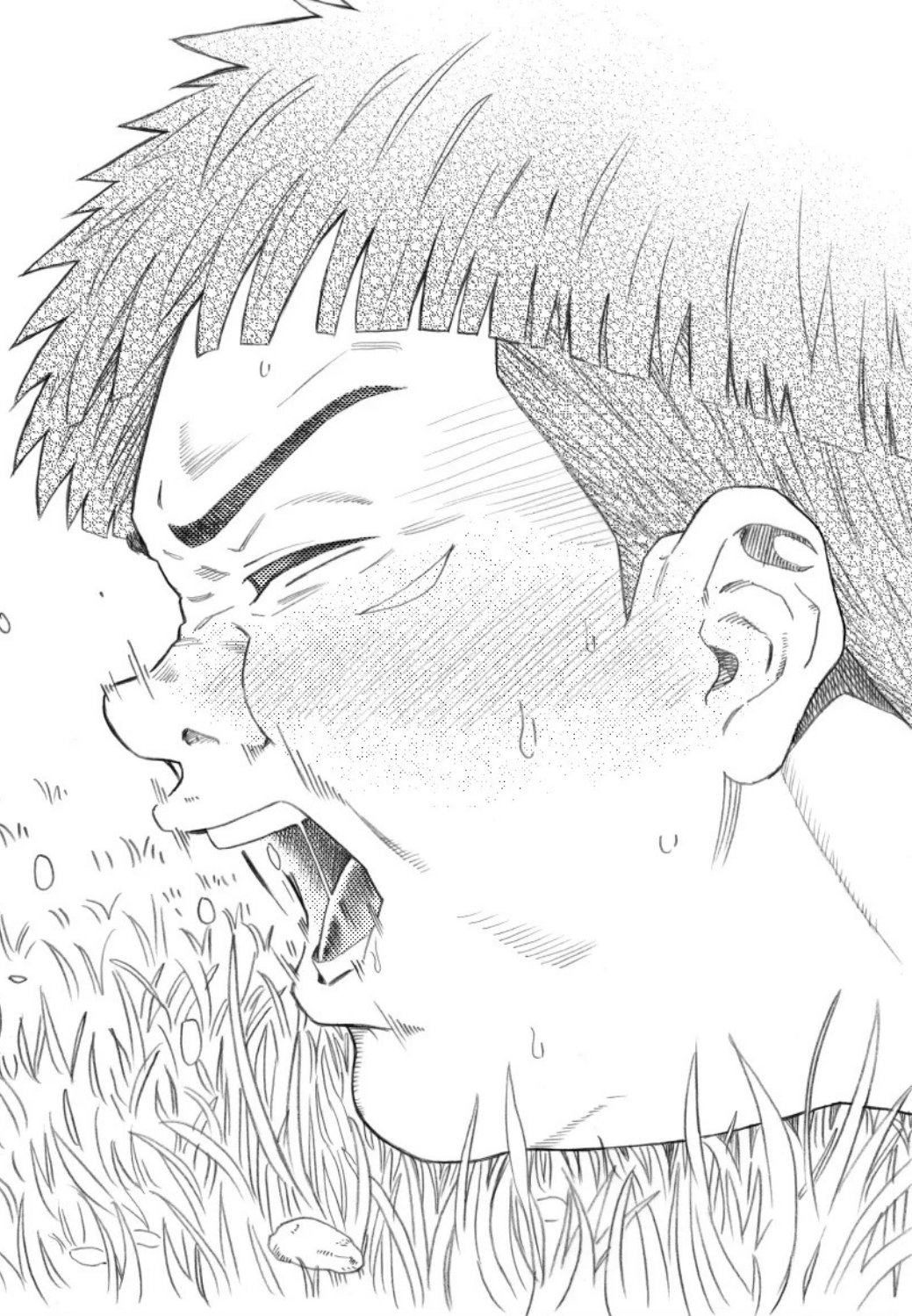
みじめに  
慰め合うしか  
ないんだよ



お前も  
俺や  
コイツらの  
ように

みだれて  
まみれて……

くるううえエ…  
狂っちまえ!!





森の鳥たちが騒がしい……

バサッ



肌のきめ細かい  
生娘の  
やわらかな  
感触など――



お前たちは  
初潮を迎えた  
ばかりの……

せいぜい  
楽しむがよい……  
精霊に  
捧げられた  
無垢なる  
贅の子らよ



ヤツらも  
「ヤバイ夜の宴」を  
始めよったか……



知らずに  
生きて  
いくがよい



隣のウッチャナツチャ族に  
数で負けてらんねえんだから  
とっとと出して次いけよ!

ごめんなさい  
ごめんなさい

あとが  
つかえてんだよ  
早くおし!!

クソテツウ…  
おめエツウの  
ひとかけりの  
何分だけの  
てんだけよ

知らずに  
生きていけ…!!

そう……  
知らなくていいのだ。  
どんな猛獣よりも  
恐ろしい鬼を宿している  
ジツカノリヤの女たちなど…

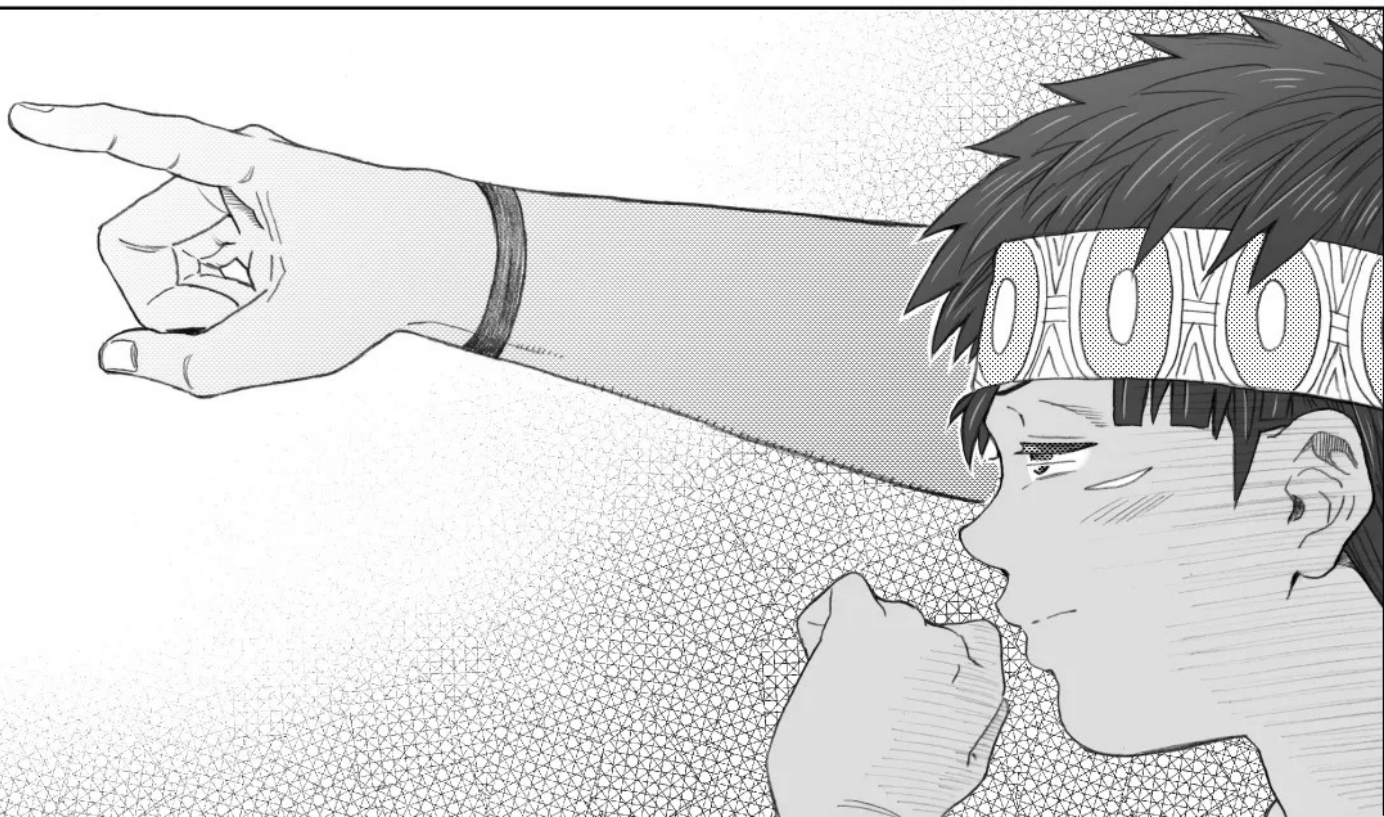
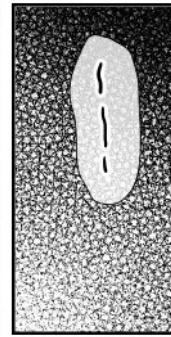
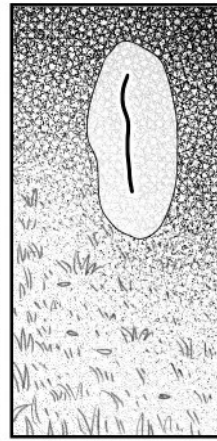
ごめんなさい  
ホント  
ごめんなさい

アタシの子供が  
アンタに似たらと  
思うとへどが出るわ

しっかし近くで見ると  
ほんとブツサイクな  
ツラしてんね…

てかお前  
いつまで長老で  
死ねる気だよ?

死ね死ね  
クソテツ  
死ね死ね!!







おわり